

1
法学部

法学部独自の奨学金制度
「やる気応援奨学金」を利用した
学生の体験をご紹介します

「やる気」門下生として
人生初の欧州へ

私は2018年の夏、語学研修部門で「やる気応援奨学金」をいただき、ドイツ北部の州ブレーメンを中心に、約5週間ドイツ連邦共和国に滞在しました。今回の渡航目的は、ブレーメン大学のサマーコースを受講してドイツ語を学ぶことと、日本では「赤ちゃんポスト」と呼ばれる「Babyklappe」を視察し、新たな情報を得ることでした。ブレーメンの音楽隊でその名が知られるブレーメンは、50万人が住むドイツ10番目の都市で、独立した州でもあり、ここでドイツ語の運用能力を伸ばすとともに、ホームステイや課外活動を通じて日本と異なる生活事情や長い歴史などについて理解を深めようと努めま

した。また、ブレーメンとさらに北部にある欧州最大の湾港都市・ハンブルクの2カ所で、「赤ちゃんポスト」発祥の地にして先進国であるドイツにおけるポストの利用状況などを調査し、この制度について現場目線の声を聞きました。

世界中からの同志と
ドイツ語での授業に参加

大学主催のサマーコースにはレベル別に複数のクラスがあり、私が所属したB1のクラスには、中国、ロシア、イタリア、メキシコ、ケニアなどから国際色豊かな18名の学生が集まりまし



ブレーメン旧市街にあるシュノア地区

た。毎日約4時間程度行われる授業では基本的な文法をはじめ、手紙の書き方、歴史、法律などにも幅広くふれました。なかでもグループでドイツ特有の文化についてプレゼンテーションを行う「Typisch Deutsch」という授業では、同じグループになった中国の学生らとともに交通をテーマに調べて意見交換を行い、最終日には参加者全員の前で3カ国の共通点と相違点を報告しました。

2つのポストを訪ねて
インタビュー

東独の古都・ドレスデンにある聖母教会の展望台から

ドイツ北部ハンブルク・
ブレーメンでの
「赤ちゃんポスト」の
実地調査

木村 駿

法学部法律学科3年
埼玉県立蕨高校出身

「赤ちゃんポスト」は、さまざまな理由から赤ちゃんを育てられない親などが、匿名で彼らを手放し保護させることのできる施設です。2000年の運用開始以降、ドイツでは100カ所近いポストが運営されており、日本でも2007年から熊本市で「こうのとりのゆりかご」が利用されています。これらは倫理観とも結びつき、慎重な検討を要するうえ、プライバシーの要保護性やその匿名性の高さから全貌が具体的に明らかに成らなっており、日本では親権や戸籍など法的な手続きが確立されていないためにいまだ後進の分野ですが、最悪の事態を水際で食い止める手法として多くの国で広まりつつあります。

1件目にかがった SternPark は、現代世界初であり、かつ日本のモデル



ハンブルクの SterniPark による現代世界初の「赤ちゃんポスト」

にもなった赤ちゃんポストの運用団体です。今回はそのオフィスで日本のポスト運営に携わる方々や研究者とも面識があるという女性スタッフに迎えられ、書籍や利用状況に関する資料をいただきました。インタビューでは、ポストは緊急避難的な措置であるとし、事前の相談や駆けつけに対してより多くの力を注いでいるという印象を受けたほか、日本では若年層に多い利用者が、ドイツでは比較的年齢が高いことなどを知り、新たな発見がありました。その後案内されたのは、この団体が経営する幼稚園に隣接した一室。外に面したオーブンのような扉を開けると、ベビーベッドや赤ちゃん用の服、利用者に向けた手紙などが置かれています。扉は一度閉めるとオートロックされ、スマートフォンで通知を受けた職員がすぐに駆けつける仕組みになっていました。

From the Faculty of Law



法学部 だより



いつでもお待ちしております！

法学部事務室
加藤郁美

春学期が始まり、新入生はそろそろ学校にも慣れ始めたころでしょうか。私たち職員は卒業生を送り出し、新入生を迎え入れ、また新たな気持ちで仕事に取り組んでいるところです。今回、このような機会をいただいたことで、あらためて「学部事務室の職員」としての自分の役割を見つめ直してみました。

私たち職員が一番うれしい時間は、やはり学生の皆さまが楽しく学び、健康的な生活をしていること、実感できることです。授業や生活のなかで不安は誰しもあるものですが、学生の皆さまがその不安と向き合い、乗り越え、前に進んでいく素敵な姿を見ると、私たち職員も心か

らうれしくなります。

私たちは事務処理をしているだけではなく、教員と学生の架け橋になることや、学習面・生活面で困っていることに対して相談を受け、解決に努めることもあります。

大したことはできないかもしれませんが、しかし、大学のことを詳しく知り、学生の皆さまが「何に困り、どんな違いに不安を感じるのか」といったことをわかっているのが私たちの強みだと思います。

このように私たちがお手伝いすることにより、学生の皆さんが安心して安全な学生生活を過ごせたらいいなと、日々考えております。

ちなみに、法学部事務室には現在、



等身大のチュー王子ポスターを掲示しております。特に用事はないかもしれませんが、学生の皆さまにはまづこのポスターを法学部事務室へ見に来ていただき、気軽に話しかけていただけたらうれしいです。学生の皆さまはもちろん、中央大学にお立ち寄りいただいたご父母の皆さまもぜひお越しください。お待ちしております。

2件目にかがった聖ヨセフ宗教財団病院は、ブレーメン州の住宅街にあり、ポストの機能はおおよそ SterniParkと同じでした。その立地は通りに面しているためアクセスしやすい一方で、やや奥まった場所に扉が設置されて人目にも配慮されていました。ポストの真上には産婦人科があり、隣には子をもつ親に向けた教室が開かれているなど、高い専門性を活かしつつ地域に開かれているようにも感じら

れました。対照的な2つの赤ちゃんポストでしたが、共通して印象的だったのは、命を救おうとする熱い思いと、さまざまな問題に実践的に取り組もうとする力強さでした。

5週間を振り返って

今回の渡航に向けては、1年ほど前からやる気応援奨学金制度の経験者からお話をうかがい、アポイントメントの準備や文献での調査も行って万全の態

勢で臨んだつもりでした。しかし、実際に現地に着くとあたふたすることばかりで、臨機応変な対応も求められました。そのなかで初めて会う多くの人々との交流や新たな発見、さまざま知見を得ることができ、非常に貴重な経験を財産として持ち帰ることができました。今回の取り組みでの成果を「やる気」挑戦者にも伝え、ドイツでの新たな活動にさらに役立てていきたいと考えています。